

水稻V溝乾田直播栽培の生育状況（4/26現在）

【進捗状況】

農林総合研究所のV溝乾田直播見本栽培では4月26日に播種作業を行いました。耕種概要は以下のとおりです。

- ①品種 まっしぐら
- ②播種床造成 秋季耕起・代かき
⇒ 均平（4月24日）
- ③種子処理 種子消毒後に浸種し、
キヒゲンR2フロアブル塗沫
- ④播種機 V溝播種機
- ⑤播種日 4月26日
- ⑥播種量 乾籾10kg/10a程度
- ⑦施肥量 窒素成分10kg/10a程度
(LP100)



写真1 播種後の様子（撮影日：4/26）

【雑草の発生状況】

例年、研究所内のV溝乾田直播見本圃場では、弘前城の桜が見頃を迎える頃に雑草が発生しはじめます。今年は4月18日にホタルイの発生が確認されました。ノビエなどの1年生雑草の発生と葉齢進展は、高温傾向で例年よりも早まっていると思われます。

見本圃場の雑草は均平作業ですき込まれたことから、4月26日現在では雑草の発生がみられていませんが、他の試験圃場では1葉期を超えたノビエが確認されています。



写真2 ノビエ（撮影日：4/27）

今後、見本圃場ではイネ出芽後の入水直前（5月下旬頃）に選択性除草剤（トドメバスMF液剤）を散布して雑草防除する予定です。

【乾田期の雑草防除のポイント】

①非選択性除草剤について

- ・イネの出芽前に薬剤散布する必要があるため、散布前に作溝内の種子の状況を良く観察してください。

②選択性除草剤について

- ・除草剤の使用晩限よりも早い時期に処理すると効果が安定します。使用時期が「播種後～ノビエ5葉期まで」の薬剤の場合は、ノビエが4葉期に達するまでに散布することをお勧めします。
- ・薬剤によって草種に対する除草効果が異なるため、圃場に発生している草種に合わせて薬剤を選択する必要があります。例えば、ノミニー液剤はイボクサやスズメノテッポウに対して高い効果を示しますが、オオニワホコリやオオクサキビの効果が劣る傾向があります。薬剤の選択に困ったときには、当研究所作物部担当者にご相談ください。



写真3 イボクサ（左）とオオクサキビ（右）

※除草剤は直播栽培に農薬登録のあるものを使用し、登録内容や注意事項を遵守してください。

【X（旧Twitter）での情報提供について】

農林総合研究所の公式Xアカウントを開設しました！

水稲V溝乾田直播栽培の生育状況をはじめ、研究所の活動や研究成果、イベント、お知らせなどの情報を発信していきます。

詳しくは、農林総合研究所公式Xアカウント（右のQRコード）をご覧ください。

